

弥三郎節

一ツエー
木造新田の下相野 村のはずれコの弥三郎アエー ヤレア 弥三郎アエー
二ツエー
二人三人と人頼んで 大開の万九郎がら嫁もらった ヤレア 弥三郎アエー
三ツエー
三つ物揃えて貰た嫁 貰てみだどご気に合わネー ヤレア 弥三郎アエー
四ツエー
夜草朝草欠ねども おそぐ戻れば苛(いび)られる ヤレア 弥三郎アエー
五ツエー
苛たりもいだりあざめだり 日に三度の口つもろ ヤレア 弥三郎アエー
六ツエー
無理だ親衆につかわれで 十の指コから血コ流す ヤレア 弥三郎アエー
七ツエー
なんぼ稼いでも働いでも つける油コもつけさせぬ ヤレア 弥三郎アエー
八ツエー
弥三郎家コぱり日コ照るな 藻川の林さも日コ照ね ヤレア 弥三郎アエー
九ツエー
この親だちア皆鬼だ このさ来る嫁アみを馬鹿だ ヤレア 弥三郎アエー
十ツエー
となり知らずのボケ餅コ 嫁にかみねでみなかくす ヤレア 弥三郎アエー



「弥三郎節の碑」
高城八幡宮境内内
(つがる市森田町下相野)

弥三郎節は、嫁いびりの内容をもった数え唄形式の唄として、全国的にも有名な民謡です。今から約200年前の文化5年(1808)旧森田村下相野の百姓弥三郎家に、隣村大開の百姓万九郎の娘が嫁にいきましたが、弥三郎の親の「いびり」に耐え切れず、ついに離縁することになり、その別れの時、外に放り出された長持に腰をかけて、思い余って嫁が恨みをこめて歌ったのが、この弥三郎節の由来とも言われています。

お問い合わせ先：つがる市教育委員会文化課
TEL：0173-49-1194



つがる市木造新田地区



つがる市牛淵町地区



つがる市稲垣町千早地区

田植えが終わった5月下旬から6月上旬、虫送りは農作物に付く害虫駆除を主な目的として、集落にとっての災厄を送り出し、豊作と村内安全を願う行事です。「ムシ」と呼ばれる薬の蛇体(龍体)人形を害虫の身代わりとして、にぎやかに囃したてて送り出します。人が扮した「アラマ(荒馬)」が田畑で暴れ回り害虫を追い出し、それを「太刀振り」踊りが切り払います。

虫送り・さなぶり



出野里獅子踊

出野里獅子踊は、天保元年以前に当地区に住み着いた下級武士が村民に教えたものと言われています。天和2年（1682）弘前八幡宮御祭礼に参加し、獅子踊り大会の部で2位（1位は松森町組）となり、それ以来、幕に紋章を付けて踊れる津軽藩公認（信政公）の獅子踊になったのではないかと言われています。現在は保存会の結成により活動しています。



お問い合わせ先：つがる市教育委員会文化課
TEL：0173-49-1194



三方荒神 鹿島獅子

今から200年以上も前に、鹿島神社がお授けになり、鹿島様の前でお神楽をやったというのが始まりと言われています。鹿と案内する猿が奥山から降りてきて、川に橋を架けて渡り、森に上がって、お宮に参拝して、神社の庭でお神楽をやるという構成になっています。このように貴重な郷土芸能である獅子舞も、戦争を境に50年もの間途絶えていましたが、昭和53年、育成小学校にクラブ活動として獅子舞クラブを結成、昭和60年から現在の形となり、その獅子舞の伝統を受け継いでいます。

お問い合わせ先：つがる市教育委員会文化課
TEL：0173-49-1194

馬市まつり (新田火まつり)

かつて木造町で行われていた東北三大馬市の一つである「馬っこ市」に代わり、昭和50年から行われているつがる市の伝統ある祭りです。8月下旬、巨大な馬ねぶたを曳き、市内を練り歩きます。最終日には馬ねぶたへ点火をし、新田開発につくした農耕馬の霊を昇天させる「新田火まつり」を行い、夏の夜空を焦がす花火がクライマックスを彩ります。



お問い合わせ先：つがる市馬市まつり実行委員会（つがる市商工観光課内）
TEL：0173-42-2111



毎年7月下旬、県内の先頭を切って開催され、青森などで見られる人型のネブタや弘前などで見られる扇型のネブタなどが10数台出陣します。3日間のまつりの期間中、各地区のネブタが一同に集まり、出陣式と各賞の発表が行われます。また、合同運行を行い、様々な囃子や踊りで木造地区の町内を練り歩きます。お互いのネブタと太鼓を寄せ合い、激しいリズムと熱気に溢れる喧嘩太鼓の競演も、つがる市ネブタまつりの特徴です。

つがる市 ネブタまつり

お問い合わせ先：つがる市ネブタまつり実行委員会（つがる市商工会内）
つがる市木造若宮 16-4 TEL：0173-42-2449

柏の木

津軽新田開発発祥地のシンボル。津軽統一の覇者津軽為信公が、天正4年（1576）戦いの合間に領内を巡視した際、大きな柏の木の下に落武者の庵が3軒ありました。為信公が土地の名を尋ねると、「蟻巣（ありす）村」と答えました。これは、柏の木の根元に大きなアリの巣があったことによります。為信公によって「広須村」と命名され、以後、津軽新田の中心地として発展しましたが、津軽新田発祥のシンボルであった柏の木にちなみ、村名を柏村としました。現在はつがる市（旧柏村）柏地区に樹齢150年の2代目が今もなお、農村公園の一角に立っています。

所在地：つがる市柏広須
お問い合わせ先：つがる市商工観光課
TEL：0173-42-2111



所在地：つがる市稲垣町豊川
お問い合わせ先：つがる市商工観光課 TEL：0173-42-2111

一本タモ

推定樹齢千年。ヤチタモ「一本タモ」は、津軽藩二代目藩主信枚公が津軽平野の開拓をした時、広大な湿原を实地調査するための目印になったと言われています。ヤチタモの特性である幹のこぶは、一見婦人の乳房に似ていることから「乳の出る神様」として崇められ、子孫繁栄のシンボルとして住民の信仰を集めています。

公孫樹の木

新田開発の大業完成近く津軽藩四代目藩主信政公が木作御飯屋改築の工事を起こし、これが落成した貞享元年（1684）8月、自ら鋤をもって庭前（北の方）に1株お手植えされたもの。幹の周囲7.5高さ25.5。乳の出ない婦人がこの木に祈願すれば必ず乳が出ると伝えられています。つがる市指定文化財（昭和60年指定）

所在地：つがる市木造千代町 99-1
（銀杏ヶ丘公園内）



日本最古のりんごの木

明治11年、古坂乙吉さんが本県りんごの先覚者弘前市の菊地三郎氏より譲り受け植栽したもので、20年栽培していましたが、現在はそのうちの3本が残っています（「紅紋」2本、「祝」1本）。樹高7・4m、主幹周3.5mの巨木です。通常りんごの木は寿命は30年ほどですが、樹齢1000年を越えた現在も、1本の木から約30箱（600kg）分のりんごが収穫されます。青森県指定文化財（天然記念物）



所在地：つがる市柏桑野木田幾世地内

埋没林

約2万8千年前のエゾマツやアカエゾマツの針葉樹が1メートルに渡り見ることが出来ます。幅約30メートルの泥炭層に1メートル2メートルの間隔で、数千本が並ぶ規模は世界最大級といわれ、最終氷期（約8万～2万年前）後期の極寒期に洪水などの急激な環境の変化により針葉樹が水没。真空パックのような状態になったまま埋没し、その根が腐らずに残ったという貴重な樹木の化石です。

所在地：つがる市木造出来島海岸



亀ヶ岡遺跡

「亀ヶ岡石器時代遺跡」から出土した、片足がなく、極めて奇妙な顔形をしている「遮光器土偶」は、いまや日本人の誰もが知っている土偶と言えるでしょう。この名称は土偶の目が北方系民俗の使用する雪眼鏡に似ていることに由来します。高さ約34センチ、土偶の胴体を占める文様は実に細かく、中は空洞となっています。昭和32年、国の重要文化財に指定され、現在は東京国立博物館に保管されています。



お問い合わせ先

縄文住居展示資料館「カルコ」
つがる市木造若緑 59-1
TEL：0173-42-6490

木造亀ヶ岡考古資料室
つがる市木造 館岡屏風山 195（縄文館内）
TEL：0173-45-3450

石神遺跡 (国定重要文化財 出土品群)

重要文化財の指定遺物は土器類114点、石器類40点、玉類等石製品・土製品56点、土偶9点の計219点であるが、なお多くの遺物が発見されています。石神遺跡は岩木山北麓の狄ヶ館溜池内に突出した台地上に所在し、縄文時代前期・中期に栄えた円筒土器文化の代表的遺跡であり、各土器型式が層序的に出土しています。また一部にヤマトシジミを主体とした貝塚も見られます。



お問い合わせ先：森田歴史民俗資料館
つがる市森田町森田月見野 340-2 TEL：0173-26-2201



マグアビーチで毎年開催



明治22年、旧車力村沖合で座礁、沈没した米国メーン州バス市の巨船チェスボロー号の船員を当時の村民達が手厚く救助、介護したことに由来し、遺難100周年をきっかけに1990年から始まったバス市と合同で行われる夏のイベント。「勇気と愛は海を越える」をテーマに車力バス市間の直線距離にあたる約1万2000メートルを1チーム5人、全参加者の合計距離で泳ぎ切ろうという水泳駅伝大会です。

チェスボロー カップ

お問い合わせ先：チェスボロー倶楽部（つがる市商工観光課内）
TEL：0173-42-2111